

# 入学試験問題

## 数学(文科)



(配点 80 点)

平成 25 年 2 月 25 日 14 時—15 時 40 分

### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で 14 ページあります。落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答には、必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 4 解答用紙の指定欄に、受験番号(表面 2 箇所、裏面 1 箇所)、科類、氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。
- 5 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 6 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号、符号などを記入してはいけません。また、解答用紙の欄外の余白には、何も書いてはいけません。
- 7 この問題冊子の余白は、計算用に使用してもよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 8 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。



# 計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

## 第 1 問

関数  $y = x(x-1)(x-3)$  のグラフを  $C$ ，原点  $O$  を通る傾き  $t$  の直線を  $\ell$  とし， $C$  と  $\ell$  が  $O$  以外に共有点をもつとする。 $C$  と  $\ell$  の共有点を  $O, P, Q$  とし， $|\overrightarrow{OP}|$  と  $|\overrightarrow{OQ}|$  の積を  $g(t)$  とおく。ただし，それら共有点の 1 つが接点である場合は， $O, P, Q$  のうちの 2 つが一致して，その接点であるとする。関数  $g(t)$  の増減を調べ，その極値を求めよ。

# 計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

## 第 2 問

座標平面上の 3 点

$$P(0, -\sqrt{2}), \quad Q(0, \sqrt{2}), \quad A(a, \sqrt{a^2+1}) \quad (0 \leq a \leq 1)$$

を考える。

- (1) 2つの線分の長さの差  $PA - AQ$  は  $a$  によらない定数であることを示し、その値を求めよ。
- (2)  $Q$  を端点とし  $A$  を通る半直線と放物線  $y = \frac{\sqrt{2}}{8}x^2$  との交点を  $B$  とする。点  $B$  から直線  $y = 2$  へ下ろした垂線と直線  $y = 2$  との交点を  $C$  とする。このとき、線分の長さの和

$$PA + AB + BC$$

は  $a$  によらない定数であることを示し、その値を求めよ。

# 計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 3 問

$a, b$  を実数の定数とする。実数  $x, y$  が

$$x^2 + y^2 \leq 25, \quad 2x + y \leq 5$$

をともに満たすとき、 $z = x^2 + y^2 - 2ax - 2by$  の最小値を求めよ。

# 計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

## 第 4 問

A, B の 2 人がいる。投げたとき表裏が出る確率がそれぞれ  $\frac{1}{2}$  のコインが 1 枚あり、最初は A がそのコインを持っている。次の操作を繰り返す。

- (i) A がコインを持っているときは、コインを投げ、表が出れば A に 1 点を与え、コインは A がそのまま持つ。裏が出れば、両者に点を与えず、A はコインを B に渡す。
- (ii) B がコインを持っているときは、コインを投げ、表が出れば B に 1 点を与え、コインは B がそのまま持つ。裏が出れば、両者に点を与えず、B はコインを A に渡す。

そして A, B のいずれかが 2 点を獲得した時点で、2 点を獲得した方の勝利とする。たとえば、コインが表, 裏, 表, 表と出た場合、この時点で A は 1 点, B は 2 点を獲得しているので B の勝利となる。

A, B あわせてちょうど  $n$  回コインを投げ終えたときに A の勝利となる確率  $p(n)$  を求めよ。

# 計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

# 計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

# 計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

# 計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)